

資料 2

科学技術・学術審議会
大学研究力強化委員会
(第4回) R4. 5. 30

東海国立大学機構・岐阜大学の研究力強化

地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ
令和4年5月30日 第4回大学研究力強化委員会

東海国立大学機構 岐阜大学長 吉田和弘



岐阜大学の概要

【理念】

岐阜の地は、清流の国と称される豊かな自然に恵まれ、東西文化が接触する地理的条件や歴史的な背景による多様な文化と技術を創造し、伝承してきた。東海国立大学機構の構成大学である岐阜大学は、岐阜の地のこのような特性を継承するとともに、「**人が育つ場所**」という風土の中で「**学び、究め、貢献する**」人材を社会に輩出する。



また、岐阜大学は、全ての学部・研究科が1つのキャンパスにある特徴を教育・研究の両面に活かし、特に、高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育、教育の基盤としての質の高い研究、地域に根ざした国際化を展開する。さらに、これらの成果を地域還元することなどにより、地域社会の活性化の中核的拠点を目指す。

【学部・研究科】

5学部(教育／地域科学／医学／工学／応用生物科学)
1学部等連係課程(社会システム経営学環 R3年度設置)
8研究科(教育学／地域科学／医学系／工学／自然科学技術／共同獣医学／連合農学／連合創薬医療情報)

【学生・教職員】(2022.5.1現在)

学部生5,644人 大学院生1,598人
教職員(執行部7人 教員790人
その他職員1,504人)

【附属病院】

病床数 614床
令和3年度患者延数(入院193,064人 外来323,434人)
令和3年度一日平均患者数(入院528.9人 外来1,336.5人)

【附属学校】

教育学部附属小中学校(児童・生徒数 944人)※義務教育学校



①知と人材を集積して世界をリードするとともに、東海地域の未来型社会への転換を先導する役割を担い、日本一の地域中核大学としての発展を目指します。

②「国際的な競争力向上」と「地域共創への貢献」を両輪とした世界最高水準の研究の発展を目指します。

③成果の創出と新たな強みとなる分野の発展に尽力し、世界トップレベルの研究により社会展開の好循環を確立します。

④東海機構が掲げる、「TOKAI-PRACTISS 構想」を実践し、国際社会と地域共創へ貢献します。

⑤「ひとづくり」「食づくり」「ものづくり」「産業や町づくり」「新たな医療づくり」を「ぎふのミ・ラ・イ・エ構想」として教育・研究・社会貢献を推進していきます。



学長 吉田 和弘

1.東海国立大学機構の設立(岐阜大学で何が変わったか)

令和2年4月設立。機構直轄4拠点およびアカデミック・セントラルの設置等統合による効果を存分に活用。

2.世界と伍する研究力の強み(世界トップレベルの研究拠点)

機構直轄拠点の1つとして糖鎖生命コア研究拠点を発足させ、世界で無二の統合的糖鎖研究拠点を形成

3「地域共創の場」として地域企業との産学連携

TOKAI-PRACTISSの実現、「岐阜大学地域展開ビジョン2030」による産学官連携の推進、航空宇宙生産技術開発センターの設置

産学官連携を推進し、地域の産業振興や課題解決に貢献



4.「地域創生のハブ」として 自治体との連携による地域活性化

岐阜県・岐阜市等自治体からの投資や連携事業が増加し、自治体等との緊密な連携に基づく地域活性化モデルを実現

5.強み・特色を生かした研究の推進

先端医療・創薬イノベーションにおける医獣薬一体型創薬・非臨床研究拠点の構築と地域医療、健康医療への貢献

6.将来構想概要案 (「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想案)

7.研究力強化に必要な支援(提案)

1.東海国立大学機構の設立(岐阜大学で何が変わったか)

令和2年4月設立。機構直轄4拠点およびアカデミック・セントラルの設置等統合による効果を存分に活用。

2.世界と伍する研究力の強み(世界トップレベルの研究拠点)

機構直轄拠点の1つとして糖鎖生命コア研究拠点を発足させ、世界で無二の統合的糖鎖研究拠点を形成

3「地域共創の場」として地域企業との産学連携

TOKAI-PRACTISSの実現、「岐阜大学地域展開ビジョン2030」による産学官連携の推進、航空宇宙生産技術開発センターの設置

産学官連携を推進し、地域の産業振興や課題解決に貢献



4.「地域創生のハブ」として 自治体との連携による地域活性化

岐阜県・岐阜市等自治体からの投資や連携事業が増加し、自治体等との緊密な連携に基づく地域活性化モデルを実現

5.強み・特色を生かした研究の推進

先端医療・創薬イノベーションにおける医獣薬一体型創薬・非臨床研究拠点の構築と地域医療、健康医療への貢献

6.将来構想概要案 (「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想案)

7.研究力強化に必要な支援(提案)

1. 東海国立大学機構の設立 (国立初の一法人複数大学の誕生)



令和2年4月、岐阜大学及び名古屋大学は、我が国初となる国立大学の一法人複数大学制の下で東海国立大学機構を設立。

国際競争力と地域共創貢献力の2つのミッションを同時に達成

現代社会において国立大学が期待されているミッション達成のためには、地域共創貢献力 (I) と国際競争力 (III) を同時に達成することが不可欠

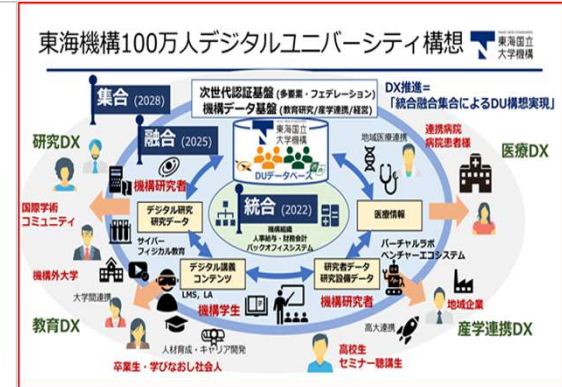
I + III = IVへの挑戦



東海国立大学機構のビジョン

1. 世界最高水準の研究の展開による知の拠点化
2. 国際通用性のある質の高い教育の実践
3. 社会・産業の課題解決を通じた国際社会と地域共創への貢献

リベラル・アーツ教育のより一層の充実、次世代型教育の導入、数理データ科学教育や語学教育などをより一層進めていくための共同基盤として「アカデミック・セントラル」を立ち上げ、両大学のメリットを活かした教育改革を推進。デジタル技術を有効活用した教育の質の向上、文理横断的・異分野融合的な知を備えた人材の育成、知の生産・価値創造を先導し、知の結集を図って世界に羽ばたくSociety 5.0を支える人材の輩出

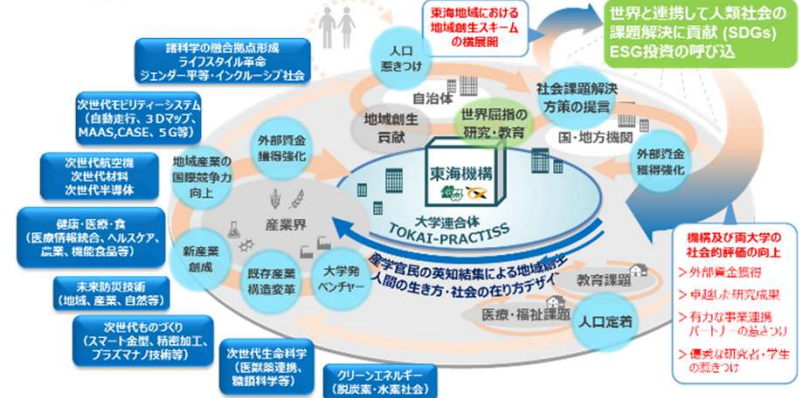


両大学において強みのある分野について、所属大学を越えて教員を結集することにより、特色ある世界最先端研究拠点を目指す機構直轄の研究拠点を形成。

スタートアップ・ビジョン

TOKAI-PRACTISS (東海地域の大学・産業界・地域発展の好循環モデル) の実現

✓ 東海機構及び大学連合体が“東海地域における地域創生の中核拠点”となり、世界トップレベルの“知”と、地域セクターとの緊密な協力支援関係を活用しながら、地域の構造変革を起こして世界に波及させる



糖鎖生命コア研究拠点

世界トップレベルの糖鎖化学・イメージング (岐阜大学)、糖鎖生物・糖鎖医学 (名古屋大学) 分野の両大学の研究者が集結し、世界で無二の統合的糖鎖拠点を形成する。

医療健康データ統合研究教育拠点

診療情報を収集する基盤となる標準化リポジトリ・システムを両大学に構築。仕様が異なる複数ベンダーの電子カルテシステムからデータを収集し、データ駆動型の研究を推進する臨床研究のプラットフォームを構築する。

航空宇宙研究教育拠点

我が国の航空宇宙生産の約50%が集中する東海地域において、産学官の強固な連携により、世界をリードする航空宇宙産業クラスター形成と人材の輩出に貢献する。

農学教育研究拠点

両大学が培ってきた農学に関わる教育研究リソースを統合し、農業および生物産業に係わる高度な教育研究拠点を構築。人材養成と研究を通して、我が国のみならず、世界レベルの課題解決に向けた活動を推進する。

1. 東海国立大学機構の設立 (法人統合による主な効果)

両大学の強みを生かした産学官連携及び研究体制の強化

① **機構直轄4拠点** (糖鎖生命コア研究拠点、航空宇宙研究教育拠点、医療健康データ統合研究教育拠点、農学教育研究拠点) 設置による研究教育の推進
「**共同利用・共同研究拠点**」(糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点)に認定

② 「国立大学イノベーション創出環境強化事業」採択による
機構内大学横断プロジェクトの実施と、地域展開ビジョン
2030に基づくイノベーション創出による**研究者の意欲の向上**
と**研究力強化を推進**

③ 「**学術研究・産学官連携統括本部**」の設置による連携・相互補完体制の強化と横断的産学連携プロジェクト実施に向けた「**産学連携推進事業費補助金(地域の中核大学の産学融合拠点の整備)**」採択による施設環境整備

④ 「**先端研究基盤共用促進事業(コアファシリティ構築支援プログラム)**」採択による**コアファシリティ化の推進**

両大学のメリットを活かした教育改革の推進

① **アカデミック・セントラル**による**大学間の連携強化**

② **連携開設制度**に基づく**教職課程の開設**

③ **博士課程学生への経済的支援の強化**

④ **全国大学ジョイント・ディグリープログラム協議会**発足

デジタル化(DX)の推進

未来型大学の情報デジタル基盤「**デジタルユニバーシティ**」構想を推進

事務体制の合理化・効率化等による機能強化の推進

① **共通業務の一元化**等による事務の合理化・効率化と**事務組織の一元化**

② **人事及び財務基幹システムの統合**による業務の標準化の推進

③ **各種研修等の合同実施**

岐阜大学の強み・特色・実績

1.東海国立大学機構の設立(岐阜大学で何が変わったか)

令和2年4月設立。機構直轄4拠点およびアカデミック・セントラルの設置等統合による効果を存分に活用。

2.世界と伍する研究力の強み(世界トップレベルの研究拠点)

機構直轄拠点の1つとして糖鎖生命コア研究拠点を発足させ、世界で無二の統合的糖鎖研究拠点を形成

3「地域共創の場」として地域企業との産学連携

TOKAI-PRACTISSの実現、「岐阜大学地域展開ビジョン2030」による産学官連携の推進、航空宇宙生産技術開発センターの設置

4.「地域創生のハブ」として 自治体との連携による地域活性化

岐阜県・岐阜市等自治体からの投資や連携事業が増加し、自治体等との緊密な連携に基づく地域活性化モデルを実現

5.強み・特色を生かした研究の推進

先端医療・創薬イノベーションにおける医獣薬一体型創薬・非臨床研究拠点の構築と地域医療、健康医療への貢献

6.将来構想概要案 (「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想案)

7.研究力強化に必要な支援(提案)

産学官連携を推進し、地域の産業振興や課題解決に貢献



2. 世界と伍する研究力の強み (糖鎖研究の歩み)

世界トップレベルの糖鎖化学・イメージング(岐阜大学)、糖鎖生物・糖鎖医学(名古屋大学)分野の**両大学の研究者が集結し、糖鎖分析、糖鎖数理モデルなどの分野をさらに強化**することで、世界で無二の統合的糖鎖拠点として糖鎖生命コア研究拠点を設置。

医学・薬学・獣医学・生命科学の研究者が同一キャンパスに集まっているという特徴を活かし、学内の秀でた**研究者を集結**させ、「**生命の鎖統合研究センター**」を設置。

2016年10月、**生命の鎖統合研究センター**を設置し、**異分野融合研究**を拡充。

2007年度**WPI 事業**へ参画。補助金等支援を得て生理活性糖鎖の化学合成や糖鎖合成技術の精錬などのプロジェクト研究を加速。

系統的にガングリオシドを合成する個人研究を推進。

2020年4月、機構直轄拠点設置。糖鎖に基づく生命原理の解明、さらに個別予防や未病検知等医療革新につながる基礎研究を推進。

研究拠点化

法人統合による連携拡大

国際プロジェクトとして世界展開

2020年9月「**学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定ーロードマップ2020ー**」に掲載。

2022年4月より、**共同利用・共同研究拠点**として認可。共創的研究プラットフォームとして広く研究支援を実施

3機関(東海機構、自然科学研究機構並びに創価大学)連携による共同利用・共同研究拠点

人間の全ての糖鎖を解読する世界初の挑戦となる国際プロジェクト、ヒューマングライコームプロジェクトを東海国立大学機構が主導。日本が世界の中心となりプロジェクトを牽引する。



糖鎖生命コア研究所新棟(仮称)を建設中(2023年3月事業完了)



日本が世界の中心となりプロジェクトを牽引

ステージ1【個人研究推進期】
1970年代～
「世界的な糖鎖の研究拠点を作る」という目標を掲げ、木曾真教授らが科研費(基盤A、S)などにより個人研究を推進。

ステージ2【プロジェクト研究推進期】 2007年度～
2007年度より岐阜大学サテライトとして**WPI 物質—細胞統合システム拠点(京都大学iCeMS)**へ参画。WPI事業の終了後、大学自己財源及び概算要求等による支援をもとに2016年度に組織規模を縮小しながらも学内に**生命の鎖統合研究センター**を設置し、**プロジェクト研究**を推進

ステージ3【拠点形成期】 2020年度～
2020年度に東海機構直轄拠点として拠点形成が加速。2021年度に糖鎖コア研究所を名古屋大学と共同設置し、研究者の配置を両大学あわせ53人まで増強。2022年度には共同利用・共同研究拠点へ認定され、100人規模の研究者が関わる**オールジャパンの研究体制**を構築

ステージ4【国際プロジェクト展開期】
国際プロジェクトとしてヒューマングライコームプロジェクトを主導し、日本が**世界の中心**となり**世界展開**を目指す

2. 世界と伍する研究力の強み（世界トップレベルの研究拠点）

【世界で無二の統合的糖鎖研究拠点の形成】

・機構直轄拠点の1つとして糖鎖生命コア研究拠点（糖鎖生命コア研究所^(※1)）として名古屋大学と共同設置）を発足。世界で無二の統合的糖鎖研究拠点の形成を目指している。

・同研究所の主要プロジェクトである「ヒューマングライコームプロジェクト」については、文部科学省の科学技術・学術審議会が令和2年9月に公表した「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定ーロードマップ2020ー」に掲載され、東海国立大学機構がその中核となって世界各国の主要な糖鎖研究機関と連携した生命科学の革新を目指す重要な国際プロジェクトである。

・岐阜大学の柳戸キャンパス内には、国の支援による糖鎖生命コア研究所新棟（仮称）を建設中（令和5年3月事業完了）であり、日本人研究者のみならず、博士課程学生を含め多くの国内外の研究者（通年で延べ500名程度を想定）が世界最先端の糖鎖研究を実施する予定である。



国立大学等における最先端研究基盤の整備

背景・課題

独創的な新技術や社会課題解決に貢献するイノベーションの創出に向けては、多様で卓越した知を生み出す学術研究の振興により、我が国の研究力の強化と研究環境の向上を図ることが求められている。このため、研究者コミュニティの総意を得つつ、国立大学等の知を結集した国際的な研究拠点の形成と、国内外に対する共通研究基盤の提供を着実に推進し、学術研究の卓越性と多様性を確保することが必要である。

事業内容

国立大学及び大学共同利用機関において、イノベーションの創出につながる研究、感染症対策、国土強靱化等を進めていくために必要な最先端研究設備の整備を推進する。（以下、例示◆）

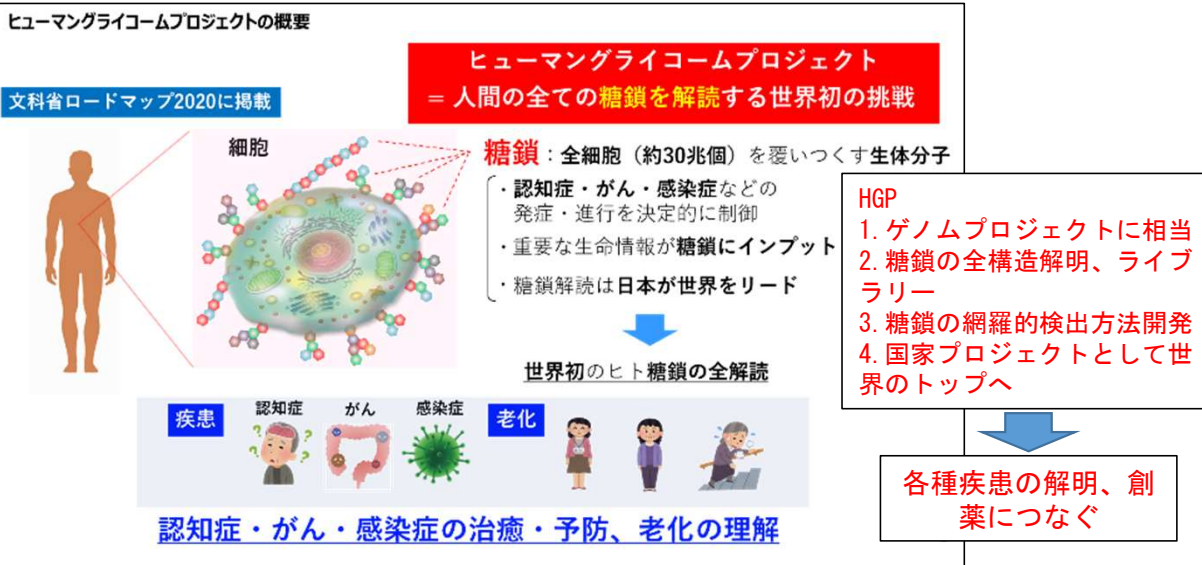
- ◆**ハイパーカミオカンデ(HK)計画の推進**（東京大学宇宙線研究所、高エネルギー加速器研究機構）
 - 日本が切り拓いてきたニュートリノ研究の次世代計画として、超高感度検出器を備えた総重量26万トンの大型検出器の建設及びJ-PARCの高度化により、ニュートリノの検出性能を著しく向上（スーパーカミオカンデの約10倍の観測性能）。
 - 素粒子物理学の大統一理論の鍵となる未発見の量子崩壊探索やCP対称性の破れなどのニュートリノ研究を通じて、新たな物理法則の発見、素粒子と宇宙の謎の解明を目指す。
- ◆**大強度陽子加速器施設(J-PARC)による物質・生命科学及び原子核・素粒子物理学研究の推進**（高エネルギー加速器研究機構）
 - 世界最大級のビーム強度を持つ陽子加速器施設であり、多様な粒子ビームを用いて基礎研究から応用研究に至る幅広い研究を推進。
 - 電源増強等により強化されたビームパワーに対応し、競合する海外実験との競争を優位に展開するため、大規模ビーム対応、ビーム制御増強を実施。
- ◆**大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の共同利用研究**（自然科学研究機構国立天文台）
 - 米国ハワイ島に建設した口径8.2mの「すばる」望遠鏡により、銀河が誕生した頃の宇宙の姿を探る。約129億光年離れた銀河を発見するなど、大規模な国際共同研究による多数の観測成果を有する。
 - 赤外線観測能力向上のための高度化及び老朽化対策により、世界最高性能の観測活動を実施。
- ◆**スピントロニクス学術研究基盤と連携ネットワーク**拠点の整備（東北大学電気通信研究所、東京大学スピントロニクス学術連携研究教育センター）
 - スピントロニクス研究基盤の整備により、材料科学、情報科学等の分野及び機関間ネットワークを強化。
- ◆**強磁場コラボラトリー：統合された次世代全日本強磁場施設の形成**（東北大学金属材料研究所、東京大学物理学研究所）
 - 次世代強磁場科学研究基盤の整備により、物質・材料科学の統合研究機構を強化。
- ◆**ヒューマングライコームプロジェクト**（東海国立大学機構糖鎖生命コア研究所）
 - ヒト糖鎖構造研究基盤の整備により、糖鎖構造の解析技術基盤を確立、研究拠点機能を強化。



成果・インパクト

我が国が、世界の学術フロンティアを先導し、次世代研究人材の育成に貢献するとともに、感染症に対する新たな知見の確立や、クリーン・エネルギーの実現など、社会課題の解決に貢献する。

経済財政運営と改革の基本方針2021（令和3年6月18日閣議決定）
第3章 高度成長戦略の推進
4. デジタル化を推進するデジタル戦略
（明）世界の学術フロンティア等先導する研究拠点の形成と国際的な研究拠点の強化
（特）学術研究・イノベーション推進計画（令和3年7月15日閣議決定）
第2章 科学技術イノベーション戦略の推進
（明）多様な人材の育成と研究力の強化
（特）世界的研究力の向上と国際的な研究拠点の強化



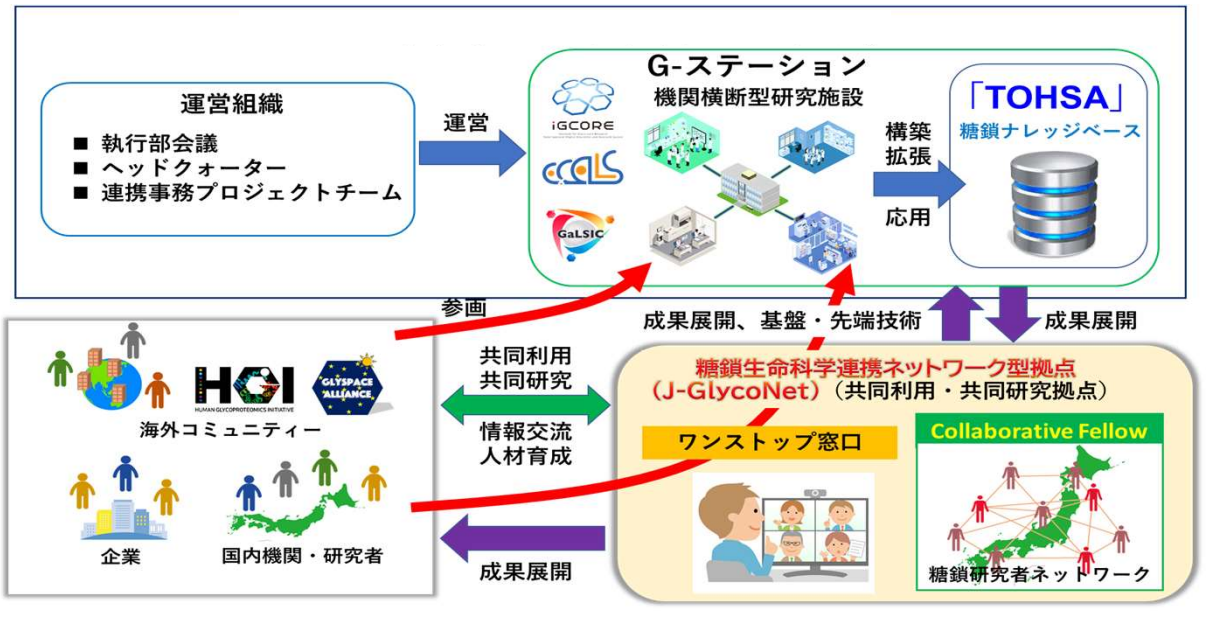
2. 世界と伍する研究力の強み（共同利用・共同研究拠点）

J-GlycoNet 糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点の設置

東海国立大学機構 糖鎖生命コア研究所、自然科学研究機構 生命創生探究センター、創価大学 糖鎖生命システム融合研究所は、文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」：糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点に認定されました。

【先端的な糖鎖研究力を活かし、研究者に対して広く研究支援】

糖鎖研究を推進するための共創的研究プラットフォームとして共同利用・共同研究事業を展開。3施設が有する先端的な糖鎖研究力を活かし、糖鎖研究者と糖鎖科学を専門としない研究者に対して広く研究支援を行い、生命科学研究全体のアクセラレーターとしての機能を担う。



及び国際共同利用・共同研究拠点一覧【令和4年度予定】 第1回大学研究力強化委員会 (12/1)配布資料

国際共同利用・共同研究拠点 (国立大学): 4大学6拠点

- 東北大学 金属材料研究所
- 京都大学 化学研究所
- 東京大学 数理解析研究所
- 大阪大学 医学研究所
- 大阪大学 宇宙線研究所
- 大阪大学 核物理研究センター

7拠点ネットワーク : 19大学27拠点、5連携施設

【学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点】

- 北海道大学 情報基盤センター
- 東北大学 9iV-9iVセンター
- ★東京大学 情報基盤センター
- 東京工業大学 学術国際情報センター
- 名古屋大学 情報基盤センター
- 京都大学 学術情報イノベーションイノベーションセンター
- 大阪大学 9iV-9iVセンター
- 九州大学 情報基盤研究開発センター

【物質・デバイス領域共同研究拠点】

- 北海道大学 電子科学研究所
- 東北大学 多元物質科学研究所
- 東京工業大学 科学技術創成研究院
- 大阪大学 化学科学研究所
- 九州大学 産業科学研究所
- 九州大学 先端物質化学研究所

【生体医工学共同研究拠点】

- ★東京医科歯科大学 生体材料工学研究所
- 東北大学 科学技術創成研究院
- 東京工業大学 未来産業技術研究所
- 静岡大学 電子工学研究所
- 広島大学 ナノデバイス融合科学研究所

【放射線災害・医学科学研究拠点】

- ★広島大学 原爆放射線医学研究所
- 長崎大学 原爆後障害医療研究所
- 福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学センター

【放射線環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点】

- 弘前大学 被ばく医療総合研究所
- 福島大学 環境放射能研究所
- ★筑波大学 7iV-7iV 環境動態研究センター
- ＜連携施設＞
- 日本原子力研究開発機構 福島研究開発部門
- 国立環境研究所 福島環境国際共同研究センター
- 国立環境研究所 福島地域協働研究拠点
- 環境科学技術研究所

【糖鎖科学計画共同研究拠点】

- ★北海道大学 糖鎖科学研究所
- 大阪市立大学 人工光合成研究センター
- ＜連携施設＞
- 産業技術総合研究所 糖鎖化学融合研究センター

【糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点】

- ★名古屋大学 糖鎖生命コア研究所
- 創価大学 糖鎖生命システム融合研究所
- ＜連携施設＞
- 自然科学研究機構 生命創生探究センター

単独型(公立大学): 7大学9拠点

- 会津大学 宇宙情報科学研究センター
- 横浜国立大学 糖鎖生命システム融合研究所
- 名古屋大学 創薬基盤科学研究所
- 不斉研究センター
- 大阪市立大学 糖鎖生命システム融合研究所
- 都市研究7iV
- 和歌山県立医科大学 みらい医療推進センター
- 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所天文科学センター
- 北九州市立大学 環境技術研究所先制医療工学研究センター/計測・分析センター

国際共同利用・共同研究拠点 (私立大学): 1大学1拠点

- 立命館大学 ティ・ラボセンター

国立大学が中核の拠点	拠点数計	単独型	拠点ネットワーク	国際拠点
	78	65	7	6

公私立大学が中核の拠点	拠点数計	単独型	拠点ネットワーク	国際拠点
	27	26	0	1

(※)青字の5拠点は令和4年4月から認定

2. 世界と伍する研究力の強み（若手研究者支援）

【創発的研究支援事業による若手研究者支援】

（糖鎖研究者）

【2020年度採択】

河村 奈緒子 糖鎖生命コア研究所 助教

▶ 創発事業の採択研究者511(252+259)名の分布

40/47都道府県（審査・採択はあくまで研究者の人物本位）

（第1回大学研究力強化委員会(12/1) 配布資料から抜粋）
（参考事例）地域の大学等における基礎研究の推進



（研究者の例）
河村 奈緒子（助教）
岐阜大学唯一の1期生採択者。
世界初となる糖鎖の革新的な化学合成技術を開発。岐阜大学が注力する「糖鎖科学」を牽引。

【2021年度採択】

木塚 康彦 糖鎖生命コア研究所 准教授（センター長）

兵藤 文紀 大学院医学系研究科 先端画像開発講座 特任准教授

（参考：名古屋大学 2021年度採択人数 25人 採択人数 全国2位）

JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」による博士人材育成を目的とした東海国立大学機構融合フロンティア次世代リサーチャー事業や東海機構（岐阜大学）独自の若手研究者支援制度であるG-YL（Young Leaders Cultivation）の創設により、若手研究者を支援し、次世代最先端研究を担う若手研究者を育成している。

採択機関（二期合計 <2020年+2021年>） <104研究機関>

所属	採択	所属	採択	所属	採択	所属	採択	所属	採択
東京大学	56	岡山大学	5	量子科学技術研究開発機構	2	ミシガン大学	1	長崎国際大学	1
東北大学	40	徳島大学	5	大阪府立大学	2	テキサス大学	1	同志社大学	1
京都大学	40	順天堂大学	4	豊橋技術科学大学	2	コネチカット大学	1	北見工業大学	1
名古屋大学	38	東京理科大学	3	富山大学	2	オックスフォード大学	1	横浜国立大学	1
大阪大学	34	東京理科大学	3	信州大学	2	お茶の水女子大学	1	関西医科大学	1
九州大学	23	岐阜大学	3	静岡大学	2	宇宙航空研究開発機構	1	高知工科大学	1
東京工業大学	21	鳥取大学	3	高エネルギー加速器研究機構	2	森林研究・整備機構	1	横浜国立大学	1
筑波大学	17	長崎大学	3	名古屋市立大学	2	愛知県がんセンター	1	成蹊大学	1
北海道大学	14	沖縄科学技術大学院大学	3	藤田医科大学	2	基礎生物学研究所	1	青山学院大学	1
慶應義塾大学	11	海洋研究開発機構	3	東海大学	2	自治医科大学	1	鹿児島大学	1
金沢大学	11	国立がん研究センター	3	東京慈恵会医科大学	2	東京女子医科大学	1	大阪市立大学	1
熊本大学	11	物質・材料研究機構	3	長岡技術科学大学	2	国立情報学研究所	1	杏林大学	1
産業技術総合研究所	8	分子科学研究所	3	山形大学	2	帝京大学	1	宮崎大学	1
理化学研究所	8	香川大学	2	山梨大学	2	千葉県がんセンター	1	秋田大学	1
千葉大学	7	東京都医学総合研究所	2	群馬大学	2	京都府立医科大学	1	三重大学	1
早稲田大学	7	芝浦工業大学	2	奈良先端科学技術大学院大学	2	帯広畜産大学	1	東京海洋大学	1
広島大学	7	福井大学	2	北陸先端科学技術大学院大学	1	小山工業高等専門学校	1	龍谷大学	1
東京医科歯科大学	5	明治大学	2	日本原子力研究開発機構	1	札幌医科大学	1	近畿大学	1
東京農工大学	5	山口大学	2	マックスプランク研究所	1	静岡県立大学	1	がん研究会	1
電気通信大学	5	埼玉大学	2	フリッツ・ハーバー研究所	1	国立極地研究所	1	東京農業大学	1
神戸大学	5	新潟大学	2	オーストラリア国立大学	1	生理学研究所	1		

国立研究開発法人科学技術振興機構

創発的研究支援事業 6

2020年度採択実績 岐阜大学1人 名古屋大学13人＝14人
2021年度採択実績 岐阜大学2人 名古屋大学25人＝27人

東海機構としては二期合計41人となり採択数は東大に次ぐ2位

1.東海国立大学機構の設立(岐阜大学で何が変わったか)

令和2年4月設立。機構直轄4拠点およびアカデミック・セントラルの設置等統合による効果を存分に活用。

2.世界と伍する研究力の強み(世界トップレベルの研究拠点)

機構直轄拠点の1つとして糖鎖生命コア研究拠点を発足させ、世界で無二の統合的糖鎖研究拠点を形成

3「地域共創の場」として地域企業との産学連携

TOKAI-PRACTISSの実現、「岐阜大学地域展開ビジョン2030」による産学官連携の推進、航空宇宙生産技術開発センターの設置

4.「地域創生のハブ」として 自治体との連携による地域活性化

岐阜県・岐阜市等自治体からの投資や連携事業が増加し、自治体等との緊密な連携に基づく地域活性化モデルを実現

5.強み・特色を生かした研究の推進

先端医療・創薬イノベーションにおける医獣薬一体型創薬・非臨床研究拠点の構築と地域医療、健康医療への貢献

6.将来構想概要案 (「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想案)

7.研究力強化に必要な支援(提案)

産学官連携を推進し、地域の産業振興や課題解決に貢献



3. 「地域共創の場」として地域や企業との産学連携



岐阜薬科大学の移転及びアクセス向上による大学連携、企業誘致の加速

- ・高速道路開通による県内外からのアクセスの向上により、大学連携、企業誘致が加速し、地域の中核を担う学術産業拠点を形成
- ・岐阜薬科大学の移転に伴う岐阜市のライフサイエンス拠点構想の実現を支援

航空宇宙生産技術研究センター

内閣府および岐阜県の支援を受け設置。岐阜大学が持つ航空宇宙生産技術と、名古屋大学が持つ航空宇宙設計技術の互いの強みを生かし、地域企業との連携を行うことで、魅力ある大学づくりと地域産業のさらなる発展を支援。

(仮称)岐阜IC
2024年開通予定

岐阜薬科大学整備候補地
(2028年予定)

航空宇宙生産技術研究センター

岐阜大学地域展開ビジョン2030

「地域の新たな価値の創造と知識集約型社会への変革」に寄与する岐阜大学の強みと可能性を見極めたうえで、2030年に向けた岐阜大学のあるべき姿を提示。

理念: 国際競争力の向上と地域創生に貢献するイノベーションを創出する

戦略

- 「研究推進戦略」 新境地を拓く基礎研究の推進とイノベーション創出基盤の充実
- 「産学協働戦略」 地域産業競争力の向上とイノベーションによる新たな価値創造
- 「社会貢献戦略」 地域イノベーションエコシステムの実現

✓ 東海機構及び大学連合体が「東海地域における地域創生の中核拠点」となり、世界トップレベルの「知」と、地域セクターとの緊密な協力支援関係を活用しながら、地域の構造変革を促して世界に波及させる



3.「地域共創の場」として地域や企業との産学連携（航空宇宙）

事業概要

航空宇宙生産技術開発センター

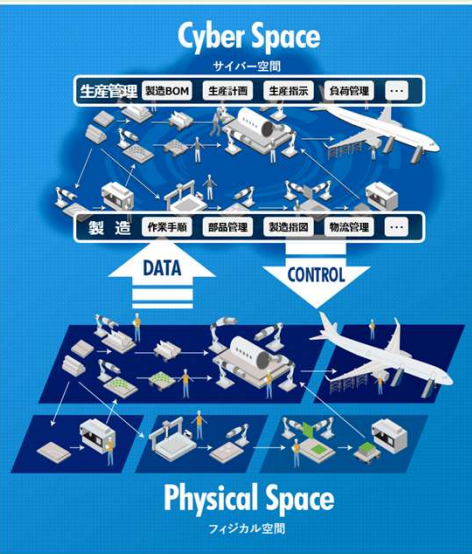
・内閣府の「地方大学・地域産業創生交付金」の支援を受け**日本で唯一の航空機の生産技術に関する教育研究機関**として「航空宇宙生産技術開発センター」を岐阜大学に設置

▶ **サイバーフィジカル工場** 航空機・部品を生産するフィジカル空間と情報分析・制御指示などを行うサイバー空間を統合した、プロジェクトが目指す生産工程を最適化する新たなモデル



航空宇宙生産技術開発センター
(令和2年10月31日竣工)

I.研究開発事業



- 航空機・部品生産工程を最適化するサイバー・フィジカル工場(CPF)を実現するため**4つの研究分野**で研究開発を推進
- 各要素技術の研究において着実に成果を積み上げ企業による実証へ展開

- ★**情報通信技術**
高度な生産管理体制を実現
- ★**加工組付けロボット**
柔軟な自動化工場を実現
- ★**AMR(自律搬送)**
工場内ロジスティックスを実現
- ★**先端加工技術**
難削材や高度な加工におけるQCDの向上

II.人材育成事業

- 「**生産技術型**」と「**設計技術型**」人材を両大学・産業界の協力体制の下で即戦力として育成
- 学部・大学院で航空機の設計から製造、飛行実証・評価までの一連プロセスを実体験できる**日本唯一のカリキュラム**を構築

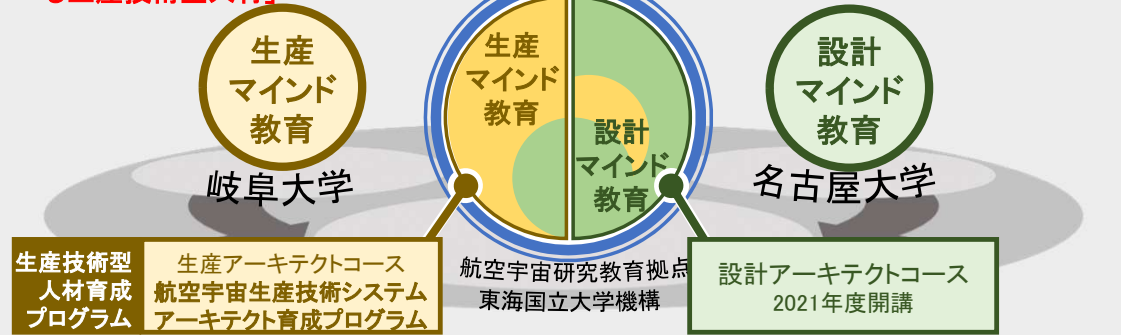
特徴① 東海国立大学機構の強みを生かした教育体制の実現

特徴② 産業界の強い関与

「**設計マインドを理解できる生産技術型人材**」

航空宇宙設計・生産融合人材育成プログラム

「**生産マインドを理解できる設計技術型人材**」



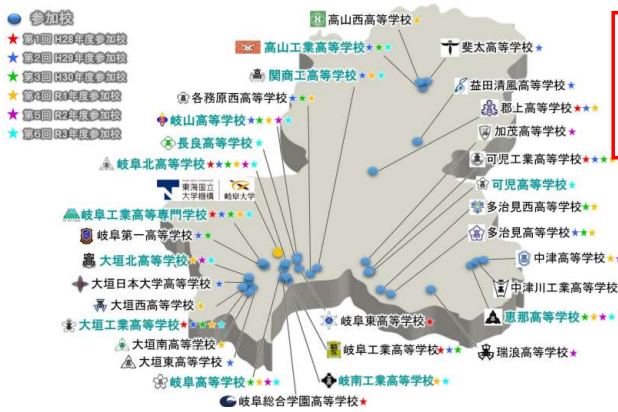
特徴③ 開発プロセス(設計から製造、飛行実証・評価まで)を一貫して実体験できる実践教育の実施 国内唯一 機構化により実現



サイバーフィジカル遠隔実習環境を整備しマルチキャンパス実習、在宅実習に展開予定

3.「地域共創の場」として地域や企業との産学連携 (高大連携による航空宇宙人材の育成)

「宇宙工学講座」【～2020年：のべ66校参加，211名修了】



高大連携教育である岐阜大学「宇宙工学講座」は2016年度にスタート。

高校生に宇宙工学の興味を惹起し、関連した大学進学にぐ。

「ものづくり岐阜」の基幹でもある航空宇宙産業の中核を担う、将来の高度専門職業人材を育成。

空き缶サイズの模擬衛星のミッションを競う
⇒ 全国大会での入賞実績

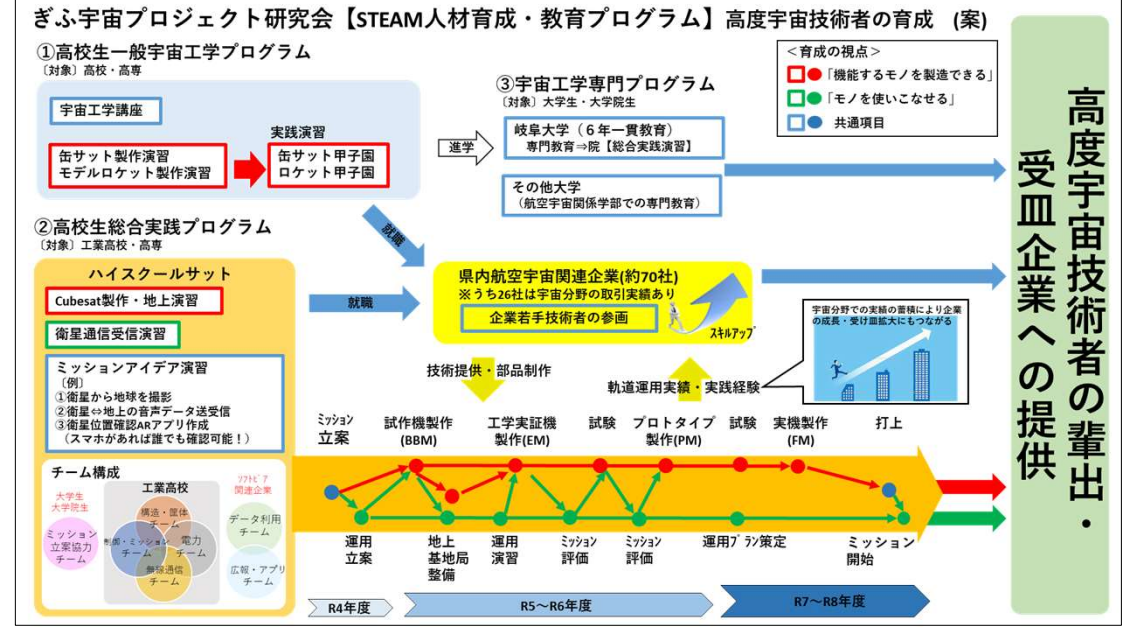
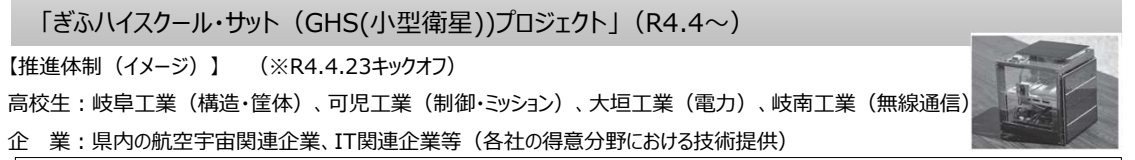


「2021缶サット甲子園全国大会」で、岐阜工業高等専門学校が初優勝

- 2020年度 土岐賞(技術賞) 国立岐阜工業高等専門学校
- 2019年度 土岐賞(技術賞) 岐阜県立可児工業高等学校
- 2018年度 準優勝 岐阜県立可児工業高等学校
- ベストプレゼンテーション賞 岐阜県立岐阜北高等学校

ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト

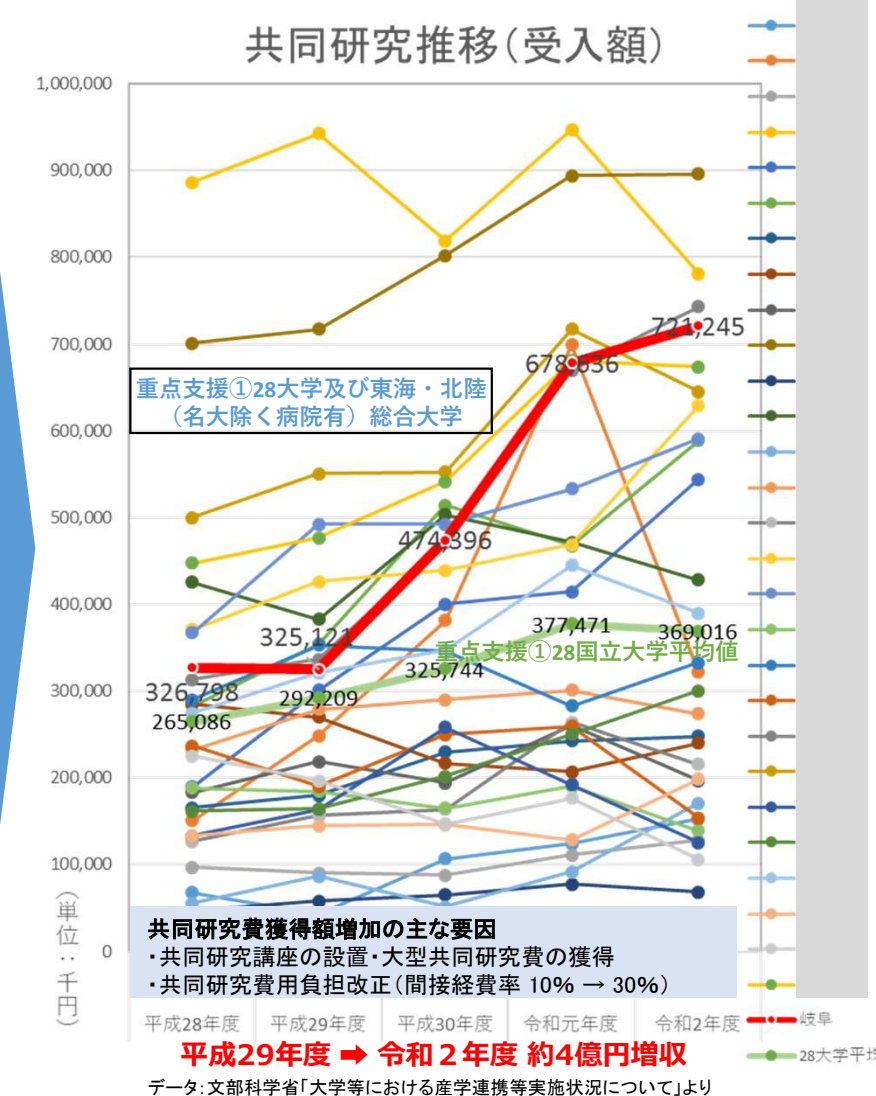
岐阜県では、宇宙産業を将来の「中核産業」として育成・支援するため、令和3年度に、「ぎふ宇宙プロジェクト研究会」を設置。取組みの一環として岐阜大学が中心となり、高専・工業高校及び県内企業と連携して小型衛星の設計・製造・打上げ・運用までを一貫して行う実践的なプログラム「ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト」を実施。



出典：ぎふ宇宙プロジェクト研究会 令和4年2月24日開催第2回勉強会資料より

3.「地域共創の場」として地域や企業との産学連携 (外部資金増収に向けた取組と実績)

	第1～2期中期目標期間	第3期中期目標期間
【取組内容】	<ul style="list-style-type: none"> 産学連携コーディネーターの拡充 地域交流協力会の運営 産官学融合本部の設置 副学長を産官学連携推進本部長に任命 大学機能強化ガバナンスの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 共同研究講座の新設 産学金官連携人材育成・定着プロジェクト推進協議会発足 共同研究費用負担の改正(間接経費率 10% → 30%) 東海国立大学機構発足、学術研究・産学官連携統括本部設置 地域展開ビジョン2030の策定 アントレプレナーシップ教育と大学発ベンチャー育成
【成果・実績】	産学連携推進組織の仕組み・運営基盤を確立 V字回復と再加速	共同研究の推進 若手教員の雇用環境改善等に活用 両大学連携共同研究の推進
【これまでの外部資金獲得額増加に向けた組織整備及び施策等】		
強み分野へのリソースの拡充	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> スマート金型開発拠点(平成29年度) Guコンポジットセンター(平成30年度) 地方創生エネルギーシステム研究センター(平成30年度) 人工知能研究推進センター(令和元年度) 地域環境変動適応研究センター(令和元年度) Coデザイン研究センター(令和2年度) </div>	
地域産業界との協働ネットワークの構築	岐阜大学産学ツーリズム ラボツアー、企業訪問、技術相談 技術交流会	
地域行政との協働事業拡充	清流の国ぎふ防災・減災センター(平成27年度)	中央家畜保健衛生所(平成29年度) 食品科学研究所(平成31年度) 気候変動適応センター(令和元年度)
共同研究の促進	若手研究スタートアップ支援	
ベンチャー支援	岐阜大学発ベンチャー認定制度制定(8社認定) 東海地域発 大学公認「起業部」創設	



岐阜大学の取組における受賞歴等

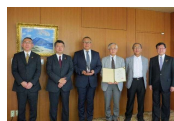
【大学の取組】

地球環境大賞

第29回地球環境大賞「文部科学大臣賞」

主催：フジサンケイグループ

岐阜県や民間企業3社と「水素社会の実現に向けた産学官連携協定」を締結し、最適エネルギーマネジメントシステムの構築を目指していること等が高く評価され受賞。



サステナブルキャンパス賞2020 学生生活部門

主催：サステナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)

「岐阜大学における学生主体の生物多様性保全・自然再生プロジェクト」が高く評価され受賞



第24回環境コミュニケーション大賞「環境配慮促進法特定事業者賞」

主催：環境省および一般財団法人地球・人間環境フォーラム

「環境ユニバーシティ 岐阜大学環境報告書2020」において、多くの学生が参画している点や二酸化炭素排出量の削減目標に向け大学全体で取組を進めている点等が高く評価され受賞



eco検定アワード2021エコユニット部門 大賞

主催：東京商工会議所

学生が環境報告書の編集や内部環境監査へ積極的に参画している点や、各種表彰につながる成果をあげた点等について評価され受賞。



大学発スタートアップ増加社数、慶應大学に次いで第2位

[令和4年5月18日 日経新聞掲載 令和3年度経産省調査より]

【研究者の活躍】

仲澤和馬シニア教授が「2020年度(第66回)仁科記念賞」受賞

「原子核乾板を用いたダブルストレンジネス原子核の研究」により受賞



工学部 木下幸治 准教授 及び 木村友亮 助教が 科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞

木下准教授：科学技術賞「経済的で環境に優しい鋼構造物の疲労き裂予防保全工法の開発」
木村助教：若手科学者賞「CO2レーザー加熱技術の地球惑星科学への応用に関する研究」

【学生の活躍】

岐阜大学生チーム「iGEM Gifu」が学生を主体とした合成生物学の世界大会2021 iGEM Giant Jamboreeで金賞

東海地域で初となる大学公認の起業部発足

『キャンパスベンチャーグランプリ中部』にて岐阜大生が令和2、3年度連続1位を受賞

令和2年度全国大会で文科大臣賞テクノロジー大賞受賞

令和4年度第14回 学生金型グランプリ(プレス用金型部門)で、“金賞”と“産業デザイン賞”をW受賞

1.東海国立大学機構の設立(岐阜大学で何が変わったか)

令和2年4月設立。機構直轄4拠点およびアカデミック・セントラルの設置等統合による効果を存分に活用。

2.世界と伍する研究力の強み(世界トップレベルの研究拠点)

機構直轄拠点の1つとして糖鎖生命コア研究拠点を発足させ、世界で無二の統合的糖鎖研究拠点を形成

3「地域共創の場」として地域企業との産学連携

TOKAI-PRACTISSの実現、「岐阜大学地域展開ビジョン2030」による産学官連携の推進、航空宇宙生産技術開発センターの設置

産学官連携を推進し、地域の産業振興や課題解決に貢献



4.「地域創生のハブ」として 自治体との連携による地域活性化

岐阜県・岐阜市等自治体からの投資や連携事業が増加し、自治体等との緊密な連携に基づく地域活性化モデルを実現

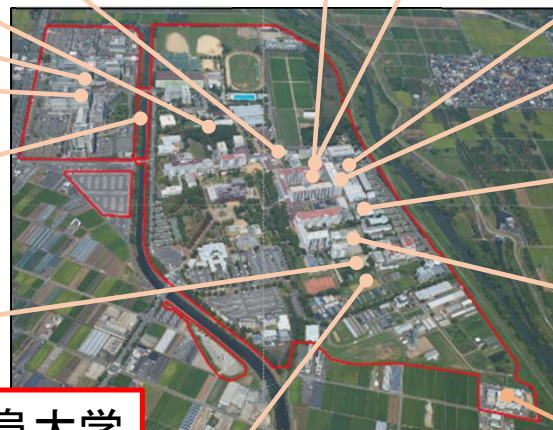
5.強み・特色を生かした研究の推進

先端医療・創薬イノベーションにおける医獣薬一体型創薬・非臨床研究拠点の構築と地域医療、健康医療への貢献

6.将来構想概要案 (「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想案)

7.研究力強化に必要な支援(提案)

4. 「地域創生のハブ」として 自治体との連携による地域活性化 研究力で地域を支える「地域の中核となる大学」(岐阜モデル1: 岐阜県・岐阜市との協働)



岐阜大学

⑫保育園(岐阜市 他)
 地域の
 人材養成
 を支える

**⑬ぎふ地域学校
 協働活動センター
 (岐阜県)**
 岐阜県と共同設置

**⑭清流の国ぎふ
 防災・減災センター**
 地域の
 安心・安全
 を支える
 岐阜県と共同設置

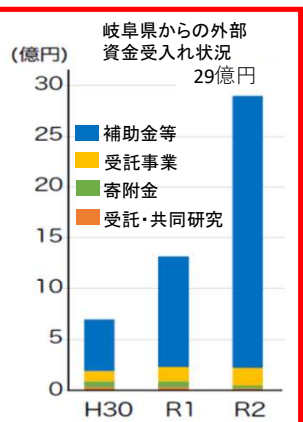
⑮岐阜県気候変動適応センター
 地域の環境
 を支える
 岐阜県と共同設置

**①航空宇宙生産技術
 開発研究センター
 (岐阜県・名大)**
 内閣府交付金・岐阜県補助金

⑪感染症寄附講座(岐阜県)
 地域の
 命・健康
 を支える

**⑩岐阜県難
 聴児支援
 センター**
 岐阜県と共同設置

**⑨岐阜薬科大学
 (岐阜市)**
 8F 岐阜大学大学院
 連合創薬医療情報研究科設置



**⑧糖鎖生命コア研究所
 (岐阜大・名大)**
 医獣薬一体型創薬・
 非臨床研究拠点構
 想



**⑦野生動物管理寄附研究部門(岐阜県)
 (野生動物管理学研究センター)**

アグリテクノパーク構想
 岐阜県農業技術センターとの連携

**岐阜県野生動物
 管理推進センター
 (R4.4設置)**
 地域の
 食を支える

美濃加茂農場

**③地域連携
 スマート金型
 技術研究センター**
 岐阜県共同設置

④岐阜県食品科学研究所
 岐阜県設置、3F大学研究施設

⑤岐阜県中央家畜保健衛生所
 岐阜県設置、3F大学研究施設

**②地域創生エネルギー
 システム研究センター**
 地域産業
 を支える
 岐阜県・八百津町
 共同設置

大学院JDP
 (食品・工学分野)
 インド工科大学
 マレーシア国民大学

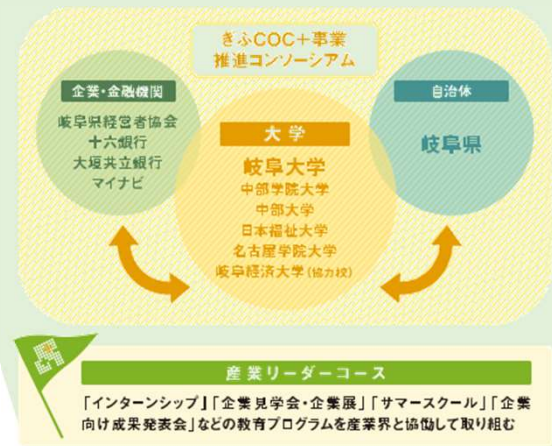
**⑥飛騨牛繁殖研修センター
 (岐阜県・JA岐阜)**
 共同設置・運営: 飛騨牛の研究・繁殖・研修

地域の
 国際化を
 支える

4. 「地域創生のハブ」として 自治体との連携による地域活性化 研究力で地域を支える「地域の中核となる大学」 (岐阜モデル2：岐阜県内自治体等との協働)



自治体・銀行・法人派遣「コーディネーター」
19自治体 27名、2銀行5名、10法人・団体10名 (R3)
地域連携協議会・懇談会 (毎年開催)



「地(知)の拠点整備事業(COC)」
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」において、
平成28年度評価、中間評価(平成29年度)、最終(事後)評価(令和2年度)で**3回連続最高評価「S」を獲得**。3回連続で最高の「S」
評価を獲得したのは、**全国で岐阜大学のみ**。



4. 「地域創生のハブ」として 自治体との連携による地域活性化 大学が持つ様々なポテンシャルに対する理解を促進し、地域自治体を巻き込む仕掛け

◆岐阜県との協定及び連携推進会議の設置

平成20年3月に岐阜県と岐阜大学が相互に協力することにより活力ある地域社会の形成と発展及び人材育成に寄与することを目的に連携に関する協定を締結。

以降、定期的に県知事及び学長の外、執行部が出席する**連携推進会議を開催**し意見交換等を実施。

【令和4年1月20日開催 岐阜県との連携推進会議における岐阜大学からの提言】

東海国立大学機構(名古屋大学 岐阜大学)が持つ様々なポテンシャルを最大限に活かし、我が国(岐阜県をはじめとする東海地域)の産業競争力の強化、グローバル課題の解決などに貢献できるよう、「**総合振興パッケージ**」を念頭に自治体との新たな取り組みを検討することを提言。

今後、岐阜大学、岐阜県、岐阜市の3者による協議の場を設け、検討を行う予定。



◆岐阜市のライフサイエンス拠点構想

岐阜薬科大学の移転やインターチェンジの開通を見据え、岐阜市がライフサイエンス拠点の形成を検討中。

【岐阜市未来のまちづくり構想より抜粋(令和4年2月策定)】

地域経済の活性化と雇用の創出を図るため、民間活力による新たな開発手法及び農業6次産業化など新たな分野も含めた、ものづくり産業等の集積や、産学官連携による**ライフサイエンス拠点形成を目指した企業誘致・立地支援を推進**。

【岐阜市産業振興ビジョンより抜粋】

市内には7校の大学および短期大学が立地しており、多方面の専門家や研究員のみなならず、多くの学生から、将来を担う人材を確保することが期待されます。黒野地域は、岐阜大学及び岐阜薬科大学が立地し、「**医学**」「**薬学**」「**工学**」「**獣医学**」「**農学**」分野が揃う**学術・研究拠点**といえます。また、令和6(2024)年度の東海環状自動車道(仮称)岐阜インターチェンジの開通を見据え、**ライフサイエンス拠点の形成**を目指しています。

岐阜薬科大学整備候補地
(2028年予定)



5. 強み・特色を生かした研究の推進 (地域医療、健康医療への貢献)

東海国立大学機構の先端医療・創薬イノベーションにおける
医獣薬一体型創薬・非臨床研究拠点
の位置づけ(名古屋大学と岐阜大学、双方に拠点整備)

地域一体型の
治験・臨床
研究体制

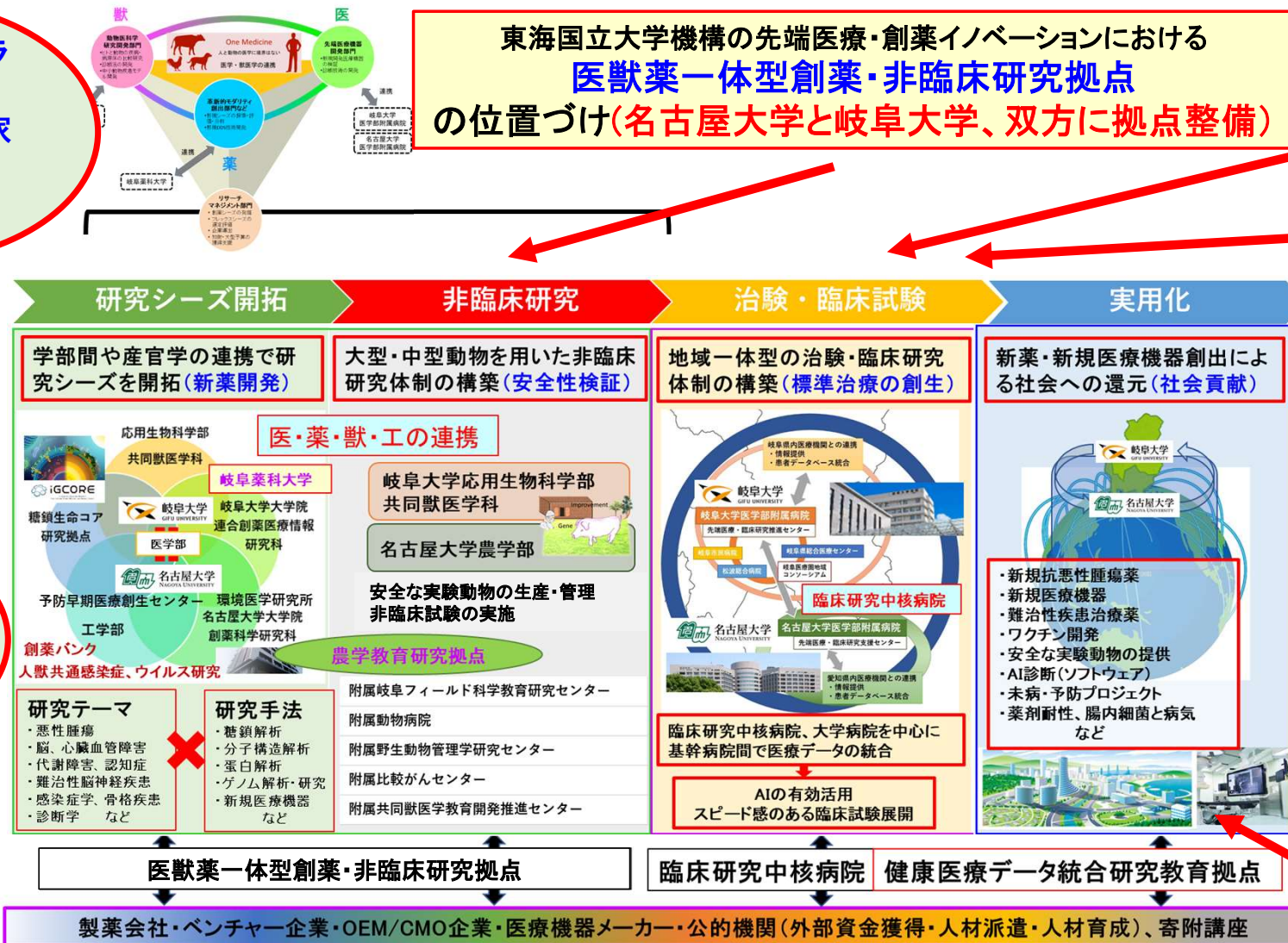
医療健康
データ統
合研究教
育拠点

奥三河メ
ディカルバ
レープロ
ジェクト

ライフサイ
エンス拠点
構想
(岐阜市)

ヒューマングラ
イコムプロ
ジェクト(国家
プロジェクト
へ)

中部先端医
療開発円環
コンソーシ
アム



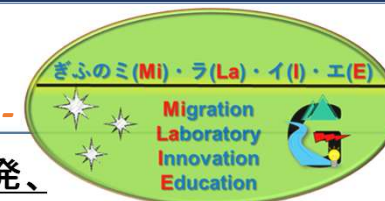
医獣薬一体型創薬・非臨床研究拠点

臨床研究中核病院 健康医療データ統合研究教育拠点

6. 岐阜大学の将来構想案 (「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想)

「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想 - 岐阜大学の目指すべき姿 -

The future image of Gifu University - Migration/Laboratory/Innovation/Education -



東海国立大学機構4拠点、医獣薬一体型創薬・非臨床研究拠点、新たなエネルギー開発、
教育を軸とする豊富な人材育成を目指した次世代の大学像

<p>Migration</p>	<p>Laboratory</p>	<p>Innovation</p>	<p>Education</p>
<p>人材移入・人口定着 を目指した地域共創 (産業・まちづくり)</p>	<p>地域の特性を生かした研究 施設と世界最高の知の拠点 (ものづくり・食づくり)</p>	<p>創薬・非臨床研究拠点 標準治療の創生 (医療づくり)</p>	<p>Society 5.0に求められる 教育・人材育成 (人づくり)</p>
<p>「社会・産業の課題解決を通じた 国際社会と地域共創への貢献」</p>	<p>「世界最高水準の研究の展開によ る知の拠点化」</p>	<p>「地域一体型のライフサイエンス研 究体制の確立」</p>	<p>「国際通用性のある質の高い教育 の実践」</p>
<p>航空宇宙研究教育拠点 TOKAI-PRACTISS(モデル)</p>	<p>糖鎖生命コア研究拠点 航空宇宙研究教育拠点 農学教育研究拠点</p>	<p>糖鎖生命コア研究拠点 医療健康データ統合研究教育拠点 医獣薬一体型創薬・非臨床研究拠 点(設置検討中)</p>	<p>アカデミック・セントラル</p>
<p>(重点分野等) エネルギー(地熱、バイオマス等)・新産 業創出・雇用創出・スマートシティ・リニ ア・環境課題(カーボンニュートラル、水 素・アンモニアの活用等)・イノベーション コモンズ</p>	<p>(重点分野等) 生命科学・航空宇宙・生産技術・流域・森 林・バイオ・刃物・金型・農業・水産・気候 環境・スマート農業</p>	<p>(重点分野等) 新規医療技術・創薬シーズ探索・非臨床 試験・治験・データ解析・トランスレーショ ナルリサーチセンター(TR)・未病・予防 医療、健康長寿データ</p>	<p>(重点分野等) IoT, DX, XR 時代、博士課程支援、ダイ バーシティー 人生100年時代リカレント教育</p>

7. 研究力強化に必要な支援の提案

1. 国際卓越研究大学と改革への強い意欲と決意を持ち有機的な連携を行う地域中核大学への積極的支援

- 地域の大学のリソースでは、新たなWPI、共共拠点や、大規模事業等の維持継続は困難。→ **積極的な基盤的支援**を。
- 支援の上においては、competitive にならない様、地域の大学にも十分な配慮が行き届くような設計を。
- 研究をサポートする事務職員やURAなどの**研究支援人材の配置、確保**や**URA人材のネットワーク化**への支援、さらに**ファンドレイザーや広報などの専門職人材の確保**にかかる支援を。
- 予算措置だけではなく**承継職員枠の増加**検討も。

2. 大学独自の特色ある研究での、第2、第3の研究シーズを育てる仕組みへの支援

- 地域の大学の萌芽的な研究シーズや**研究成果を生かす仕組みの強化**を。
例えば Mini-WPIや**複数大学による連携ネットワーク化**などの**新たな仕組み作り**などへの支援を。
優秀な職員などの定年後での研究継続可能な制度設計を。
カーボンニュートラル施策への積極的な取り組み、防災減災、気候変動環境適応研究、インフラマネジメント、中山間地域スマート農業活性化。
コロナを踏まえOne Health確立に向けたさらなる研究。
- Speedyに社会実装、地域連携など出来る仕組みを構築する大学に支援を。
- 各省庁が支援する補助事業や共同研究等において、研究サポートの基盤となる人材(事務職員やポスドク等)の人件費など、**あたり前に必要となる経費については研究費に計上できる仕組み**へ改善を。

3. 地域中核大学への評価基準の見直しを

- ガバナンス、経営体制への改革の意欲を示す大学にインセンティブを。
- 地域の自治体や産業界・地域の大学群等との連携基盤強化をする大学へのインセンティブのみならず、地域や卒業生など**ステークホルダーからの寄付**も評価を。
- 共同研究などの産学連携による外部資金等と同様に、**自治体との連携**の件数のみならず**支援金額**も評価を。

4. 地域中核大学への学生、若手研究者人材育成への支援

- 大学院博士課程の支援は10兆円ファンドから支援はあるが、地域の大学では**修士課程の学生への支援**も重要課題。
- **アントレプレナーシップ**において実績を上げる意欲のある大学にインセンティブを。
- **文理横断的教育実施にあたっての支援**を。

5. デジタル化を推進する大学への支援

補足説明資料（岐阜大学の取組におけるポイントまとめ）

【研究推進におけるポイント】

- ・大学の自己財源(学長裁量による政策経費)の確保と概算要求による支援の活用(ステージ2)
- ・ポイント管理および教育研究院の設置による柔軟な教員配置と組織整備(ステージ2~3)
- ・法人統合による両大学のリソースの統合と機構直轄拠点の形成による支援(ステージ3)
- ・機構直轄拠点のビジョンの策定及び進捗管理(年4回進捗報告・意見交換、評価等)による情報共有とガバナンスの強化(ステージ3)
- ・高等研究院及び学術研究・産学官連携統括本部の設置による研究体制の強化
- ・若手研究者や博士課程学生への支援(G-YLC 次世代リサーチャー事業等)

【地域共創の場形成におけるポイント】

- ・地域展開ビジョン2030に基づく産学連携の推進(第2、第3の矢となる42プロジェクトの実施)
- ・大学公認起業部の設置や大学発ベンチャー企業認定制度によるアントレプレナーシップの醸成とモチベーションの向上
- ・岐阜大学地域交流協力会(企業会員174社含む正会員数195、賛助会員数45で構成)による交流の場の提供

【自治体からの支援におけるポイント】

- ・自治体との課題や情報の共有(包括連携協定締結、連携推進会議等の開催 関係者・団体との協議・意見交換等)
- ・地域協学センターの設置とCOC、COC+事業の推進
- ・自治体からの地域コーディネーターの派遣(令和4年度 36人)
- ・岐阜県の施設を大学敷地内へ整備(岐阜県食品科学研究所 岐阜県中央家畜保健衛生所)
- ・岐阜薬科大学との連携及び岐阜市ライフサイエンス拠点構想